

米之譌之由米漢名未詳松岡氏以鐵背充之小野氏以竊玄充之○中按爾雅釋文引字林云鶉句喙鳥是陸氏所本句白必有一誤說文作鶉云鳥也鶉未詳

〔倭名類聚抄羽族名鶉孫愐切韻云鶉音脂漢語抄云之女小青雀也〕

〔類聚名義抄九鶉渠炎反白啄鳥鶉今或正音暗鳥鶉鶉ヒメシメ鶉ヒメ〕

〔本朝食鑑六林禽鶉〕

訓志米○中漢語抄云比米必大按之米比米聲訓相近恐是一物乎今之志米者似鶉而稍大頭腹黃

白有黃斑背大短而白背尾紫翼之上黑下黑挾白羽脛掌微黃常棲山林網而捕之氣味俱略與鶉同

〔東雅禽十七鶉ヒメ○中伊豫國風土記に據るに岡本天皇○舒皇后と共に彼國温泉に幸しまし

ます大殿戸有榭云臣木於其集止鶉云比米鳥天皇爲此鳥枝繫穗等養賜也と見えたり其記せし

所に據らば鶉を呼て比米と云ひしに似たり倭名抄には鶉鶉各別に載せたりヒメといふ義も

不詳古には臣を稱してオミといひ女を尊稱してヒメと云ひけり行宮にある所のもの天皇の

イカルカといふもの如くにしてウマシといふもの如くにしてヒメの名ありしもまた此義に因れるにマメ

らんに凡物小しきなるを呼びてヒメといふ事は前に註せりもし下學集に事は知らず

〔和漢三才圖會四十三鶉音〕

按鶉狀似桑アハシ而稍小頭淺黃赤肩背灰白翼黑中挾白羽腹灰白背大短而灰白眼下頤下正黑脛掌

微黃常棲山林鳴聲似山雀而大春月嘯出數品聲畜之食雜穀肉味有油臭氣不佳爲囹亦捕桑蓋

鶉本名比米俗鶉和名抄所謂小青雀也未詳形狀

〔飼鳥必用下〕しゆめ

此鳥秋渡る鳥也此鳥の内鳥しゆめとて何ぞかわりと云にもあらず玄ゆめだち違ふと云にもあらずまゝ交り渡る心をつけて見分べし餌飼人のゑる處なり